



災害の防止と消防活動の安全を誓う

平成三〇年度殉職消防職団員慰霊祭

平成三〇年度(第九〇回)殉職消防職・団員慰霊祭が、八月二二日(水)午前一時から秋田市千秋公園本丸の「殉職消防組員招魂碑」前において、秋田県消防協会が祭主となり執り行われました。



慰霊祭には、ご遺族の方一三名のほかご来賓、消防協会役員など四九

名が参列しました。

慰霊祭は、招魂などの神事後、中田潤秋田県消防協会長が「招魂碑に合祀されております四五柱の御霊は、郷土の平安と地域住民の安心・安全を願い、我が身の危険をも顧みず勇猛果敢に懸命な消防防災活動を遂行するなか、尊くも職に殉じられました。不屈の消防魂をもって最後まで消防人としての職責を全うされたその崇高な精神は、県内消防人の鑑であり、今も私達の心に生き続け、皆が等しく賛辞するところであります。我々消防人は、郷土愛護の精神と強固な団結力をもって、御霊のご遺訓を胸に、一致団結して厄災を防止し、地域住民の安全・安心のため最善の努力を尽くすことを誓う」と祭主祭文を奏上しました。



題 字
初代会長 松野 盛吉
定 価 1部 48円
(購読料は年会費に含む)
発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 中田 潤
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
<http://www.shoubou-akita.or.jp>
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp
印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760
<http://www.matsubairainsatsu.co.jp>

平成三十年全国統一防火標語
忘れてない？
サイフにスマホに
火の確認



堀井啓一秋田県副知事はご来賓を代表して「殉職者の皆様が身をもって示された崇高な精神と果敢な行動は、着実に本県消防人の間に受け継がれております。私たちは、皆様の御功績を心から讃えるとともに、その御遺志に応えるためにも、今後も消防、防災体制の強化に努め、県民が安全、安心に暮らせる社会の構築のために、全力で取り組むことを誓う」と慰霊のことばを述べられました。

公益財団法人日本消防協会長のメッセージの紹介に続き、玉串奉奠が行われ、中田会長、ご遺族を代表して杉淵景悦(潟上市)様、栗山尚子(鹿角市)様、ご来賓の方々御霊の冥福を祈り、最後に送魂の神事が行われ、慰霊祭は滞りなく終えました。



第七二期初任教育入校生
殉職消防組員招魂碑を清掃
秋田県消防学校

秋田市千秋公園本丸に建立されている「殉職消防組員招魂碑」の清掃は、毎年、秋田県消防学校初任教育課程の情操教育の一環として行われています。

今年も、八月二二日(水)に開催する慰霊祭に先立ち、二〇日(月)に五四名の入校生によって行われました。清掃は、碑内の玉石を移動させて枯れ葉やゴミを除去したり、碑周囲の雑草などを取り除いたほか、碑に付着したコケなどの汚れを水をかけて洗い流しました。清掃後、参加者全員が「招魂碑」に向かい黙とうを捧げました。

入校生の皆さんありがとうございました。

第二回理事会

秋田県消防協会

一般財団法人秋田県消防協会第二回理事会は、八月二二日(水)、平成三〇年度殉職消防職・団員慰霊祭終了後、秋田市中通の「イヤタカ」で開催されました。主な協議事項、報告事項についてお知らせします。

【協議事項】

①日本消防協会定例表彰の上申
表彰旗、卒頭綬などの表彰(功績章及び精績章の女性枠各一名を含む)については、各支部内申のとり、特別表彰まといは小坂町消防団を上申することとしました。

なお、優良婦人消防隊(消防隊員)に関しては、支部からの内申はありませんでした。

②秋田県消防協会定例表彰

- 勤続章と
功労章は、
各支部から
上申のとお
り授与する
ことが承認
されました
- 勤続章
六二三名
- 功労章



二三名

・消防団員家族表彰

六家族(一九名)

③秋田県消防操法大会の表彰について

平成三一年度の大会から、優勝団(ポンプ車の部及び小型ポンプの部)に対して、個人表彰を行うのが協議した結果結論に至らず、再度協議することとした。

④新日本消防会館建設に対する消防関係者の協力について

各理事から発言があつた意見を踏まえ、引き続き協議することとした。

【報告事項】

①平成三〇年度消防車両の交付要望

六消防団から交付の要望がありました。
同年度に同車種は申請できないことなどを考慮、調整した結果、三団体を要望することとした。

②平成三〇年度秋田県女性消防団ネットワーク会議

六月一二日(火)及び七月三十一日(火)に開催した、女性団員九名で構成する「開催準備委員会」において、今年度は十一月二三日(金)に開催することを決めました。

なお、今年度は新たに秋田市消防本部の協力を得て、防災教室(〇×クイズ)秋田編)を実施することとしております。

また、会議の前段で「消防個人年金」の説明会を開催します。

③全県消防団長研修会

一二月七日(金)に開催します。

研修内容等については決まり次第、各消防団に連絡します。

④消防団員研修

■第八期女性消防団員教育

一〇月二七日(土)～二八日(日)

■消防団員指導員研修

一〇月一七日(土)～一八日(日)

■消防団員幹部教育指揮幹部科

分団指揮課程

平成三一年三月二日(土)～三日(日)

場所…秋田県消防学校

平成三一年三月九日(土)～一〇日(日)

■消防団員基礎教育

平成三一年三月九日(土)～一〇日(日)

■消防団員幹部教育指揮幹部科

平成三〇年三月一六日(土)～一七日(日)

■消防団員指導員研修

平成三〇年三月一六日(土)～一七日(日)

■消防団員幹部教育指揮幹部科

現場指揮課程

平成三〇年三月一六日(土)～一七日(日)

■消防団員指導員研修

平成三〇年三月一六日(土)～一七日(日)

■消防団員幹部教育指揮幹部科

現場指揮課程

※日本消防協会主催の研修は秋田県消防協会へ、消防大学校が開催する研修は県総合防災課にそれぞれお問い合わせ下さい。

新消防団長紹介

小坂町消防団



さわ ぐちのり お
澤 口 紀 夫
昭和二六年一〇月一三日生
自営業 (六六歳)

- 昭和五一年 六月 一日入 団
- 平成二〇年 六月 一日分団長
- 平成二四年 四月 一日副団長
- 平成三〇年 八月 一日団 長

第五五回秋田県消防操法大会

抽選会を開催しました

平成三〇年八月八日(水)、午後二時から秋田市(ルポールみずほ)において、「第五五回秋田県消防操法大会」の出場順を決める抽選会を開催しました。当日は、各支部の代表など四名が出席しました。



第二六回全国消防操法大会

開催日…一〇月一九日(金)

開催場所…富山市(富山県広域消防防災センター)

★秋田県代表は、ポンプ車操法の部に出場します。

第14回 消防団員 意見発表会(二)



佐藤 将人

北秋田市消防団
分団長
・勤続三〇年
・団体職員

ポンプ車操法の二番員や水防技
術競技大会の指揮者として活躍、
積極的に訓練に励む姿にも信頼を
集めている。

「継続は力なり」

「火事だ！、火事だ！」人が叫ぶ
声で目を覚ます。時は年の瀬も押し
迫った一二月三〇日の深夜、取る物
も取らず半纏だけを纏い外に飛び出
した。その時だった、真っ赤な炎が
視界に飛び込んできたんです。すで
に三軒目に火が廻った状況でした。
この時私は、鷹巣町消防団第七分団
の入団四年目で、団では一番のペー
ペーでした。

私は入団した年からポンプ車操法
の二番員に抜擢され、何が何だか分
からないまま熱血漫画の如く練習さ
せられました。仕事が終わってから
の時間や、朝五時からなど選手的都
合の良い時間帯に練習が繰り返され
夜の練習では、終わるとポンプ小屋

にゴザを敷き、缶詰やソーセージを
つまみに、冷たい飲物を手に持ち、
練習の講評が行われました。選手以
外の団員は、そのままでも良いので
すが、我々選手はたっぷり汗をかい
た後座り込むので、尻が痒かった思
いが強く心に残っています。

その年の結果は、支部大会で二位
になったものの、大北大会では操法
開始後、自動車から降車の際、ドア
を開めた反動でホースが台から落ち
四メートル程展開していました。

「わ！なんだ」と思った瞬間から、
もうダメだと感じながら転げ落ちた
ホースを巻き、第一線を展開し、一
番員の元へ走りました。考える間も
なく「第二線延長始め」の号令がか
かる。「よし！」のかけ声と共に次
の動作に移る、ここからは全力疾
走、落ちたホースの巻き取り時間を
少しでも縮めようと気が焦る、第二
線の管そうを背負いホースを持ち、
ポンプ後方から前方へ向かおうとし
た時でした。足が滑って転倒、幸い
ホースは何ともなく直ぐに走り出
し、二線を展開し余裕ホースを取
り、管そうを構え三番員を待ちまし
た。ホースが繋がれる音を聞き「第
二線延長」の号令をかけ火点に向か
いました。

結果は散々でありましたが、周り
のみんなは「よく頑張った」「ご苦
勞さん」など競技中のアクシデント
のことは一言も触れず、温かい声を

かけてくれましたが、それが逆に私
の気持ちを重くさせていました。し
かし、その時の悔しい気持ちを忘れ
ずに二年、三年、四年と毎年練習を
重ねた結果、動作も自然に体が動く
ようになっていました。

目の前の炎は三軒目の家のみ込
もうとしていましたが、まずはポン
プ自動車を持ってこなければならず
サイレンも鳴らさなければならな
かったため、ポンプ小屋へと急ぎまし
た。同じくして機関員の先輩もやっ
て来たので、私がサイレンを鳴ら
し、先輩が車を始動させ二人でポン
プ小屋を出ました。現場まではもの
の一分で到着、水利を確保し私はす
ぐに管そうを背負い、ホースを展開
して放水を始めました。既に三軒が
燃えていて手が付けられない状況で
したが私は消火しながら燃え移らな
いよう隣の家にも放水しながら消火
に当たりました。

幸いそれ以上被害は拡大しませ
んでした。その一つの要因として、現
場で団員が迅速に行動できたからだ
と思います。この四年間、先輩方に
鍛えられ、住民の期待に応えるべく
練習を重ねて来た成果だと確信して
います。「継続は力なり！」何事も
続ける事は難しいものですが、それ
ができれば確実に自分のためになる
という思いで、今後も継続できるも
のは継続していきます。

現在、北秋田市消防団第四分団の

長として、地域住民が安心して暮ら
せるよう一人でも多くの仲間づくり
をし、一緒に活動する事が必要だと
感じています。昨今、消防団に入る
若者が少ない中、我が団では、ここ
二年間で、私の家に婿入りしてくれ
た息子を始め、四名の団員が増えま
したが、ただ増えても有事の際に動
けなければ意味がありません。訓練
大会へ出場する機会も少なく、操法
や規律訓練を行う回数が減ってきて
いる今日、各分団において各々訓練
していかなければならない時代、私
たち消防人としての役割や基礎的な
規律をしっかりと継続してもらいた
め、時代に合った消防活動ができる
環境を作らなければならぬと、今
回の発表を通して再確認できたこと
を感謝し、発表を終わりたいと思
います。



嶋田 裕介

三種町消防団
団員
・勤続五年
・公務員

両親も消防団に所属しており、
地域の防災リーダー的存在になっ
ています。今後とも若い団員の模
範となり活躍が期待されます。

「火族（かぞく）」

平成十二年十一月二〇日、一軒の

家が火事になりました。我が家です。私の父は消防団員です。火事の時、責任を感じた父は消防団員を辞めようと思いました。そのときに当時の消防長から「責任を感じるなら消防団員として火を消せ」と励まされ、消防団員を続けることになりました。私が小中学生の頃はよく操法大会を見に行きました。町の大会では毎年のように個人賞を貰い、子どもながらに「凄いなだな」と思っていました。小学生の頃は、「大人になったら父と同じ職場に入って消防団員になる」と言っていたようです。

私の母は消防団員です。火事の時、まだ消防団員ではなく、その後の家の心配ばかりしていました。その数年後、私が中学生の頃に女性消防団員となり、全国大会に二度出場しました。家元を離れていた私は、母の活躍する姿を見たことはありません。

私は消防団員です。火事の時、中学二年生だった私は呆然とし、ただただ焼けていく我が家を眺めていたことだけ憶えています。次の日には燃えて柱だけになった我が家を目の当たりにし、住む家がなくなつたことを実感しました。大学を卒業し、地元で就職してから消防団に入ることは当たり前のことでした。

我が家は消防団員です。ある年の出初式で家族表彰を受賞しました。

家族で消防団員として活躍するのは珍しいようです。ただ、我が家にとつてはあまりに当たり前のことで、特別なことをしている気はありません。操法大会の時期になると家の中が慌ただしくなるのも年中行事のよなものです。

ある火事現場でのことです。サイレンとともに消防小屋に集合したのは父と二人だけでした。現場に到着して作業を終えると、いつのまにか母もいました。これが我が家のあり方なんだなとつくづく思いました。

きつと我が家が火事にならなくても、家族で消防団に入ったと思えます。でも、火事をきつかけに消防団活動への姿勢は間違いなく変化したと思います。火事を知っているからこそ、活動できることもあります。火事で失うものを知っているからこそ、活動できることがあります。

幼き日に見た父のように、私の子ども達にも背中を見せられるように日々精進していかなければなりません。

今年も操法大会の季節がやってきます。



角崎 裕継

・男鹿市消防団
部長
・勤続二八年
・農業

日ごろから消防団活動に積極的に参加し、責任感の強さとその行動力から、部下団員の信頼を集めております。

「消防団活動で得たもの」

私の入団のきっかけは、部落の百姓の会という農家の勉強会での酒の席でした。

「ナー角、おめどご消防さひでも農協職員だからだめだどもな」当時旧若美町では、団体職員の入団ができない条例でした。

そうなる入りたくなるのが私の性分、この会には職員さんもいたのであの手この手で三年目の、平成二年一月一日によく入団ができました。

そして新入団員に待ち構えているものは、操法大会です。毎日のような練習、整列・点呼・定位置・ホースの展張、週一回の放水訓練、手に竹の棒を持った鬼のような先輩団員、練習が終わると近くの居酒屋で反省会、飴と鞭の使い方が非常に上手な幹部たち、それに答えるかのように日常生活、何をしても規律と節度優先でトイレの便器に向かうにも四五度・九〇度・一八〇度の方向変換時には「よし」の声も自然に出ます。まわりの人を見ると、こいつ変なやつだナーと思われたかもしれませぬ。しかし有事の際、操法の練習が役に立つのです。

火事現場では住民の方々も手伝ってくれます。しかしホースを五本も展張して私が六本目の結合をしようにしたら、金具が逆でした。この人達が操法の練習をしていればと思つたことがあります。また、私にも大失敗があります。それは入団して二・三年の頃だと思えます。ある住宅火災の時です。私たちの後に分署が来たので先を譲り横にそれました。状況が燃え、手前が煙でくすぶっている状態です。分署は中々に進みません。それを見ていた私が署員にいろいろな言葉をかけてしまったのです。「オメガタイがねばおらほでイグが」すかさず分署署員から「バガでねが、状況見れ、死ぬにいくぎだが、まず自分の身を守らねばねんだ」本当に恥ずかしい限りでした。

式典や会議などでよく「消防団は地域の安全・安心を守り住民の生命身体、財産を災害から守る・・・」という挨拶が聞かれます。私もこの言葉が消防団員としての使命だと思つてやってまいりました。しかし私たちは、公務災害を出してはいけません。

お陰様で私たちの部は、公務災害がなく、部の構成は積載車と小型ポンプ、団員は一七名、年齢は二〇歳から六五歳中には大学生も入団しております。この団員を守るのも私の仕事なのです。

この二八年間で得たものは、地域住民との信頼関係、団員との絆、そして命の尊さです。これからも、災害のないことを祈り、団員、地域住民との絆を深め消防団活動に邁進致します。

72期 教育 初任教

実務研修を 終えて

秋田県消防学校



鎌田 昂平
秋田市消防本部

今回で二回目となる一当務勤務の実務研修は、前回よりも充実した研修であったと感じました。内容としては、朝の交替要領、梯上放水要領、三連梯子の取扱いや応用梯子訓練などを行いました。

今回が最後の実務研修であることから、所属の上司にこれまでの訓練の成果を発揮して、成長した姿を見せられるようにすることを心掛けました。しかし、まだまだ訓練不足で指摘される点が多くあり、その点を修正し同じ失敗を繰り返さないように訓練する必要がありますと感じました。所属に戻れば、市民は私を一人の消防士として頼ってきますし、消

防署のチームの一人として活動しなければなりません。訓練で沢山失敗し反省し、災害時には適切に対応できる消防士になりたいです。卒業まで残り一ヶ月しかありません。まだ所属に戻ってしっかりと活動できるような自信はありません。残り少ないですが、一層勉強や訓練に気合いを入れて励んで、やりきったと思えるような悔いのない学校生活を送りたいです。消防吏員そして社会人として、もっと成長して市民の安全安心を守れる存在になりたいです。



茂木 勇介
秋田市消防本部

今回の実務研修は最後の研修であった。所属での勤務が始まると、自分が果たさなければならぬ職務をしっかりと覚えておかなければならぬ。

しかし、訓練では日ごろから消防学校で行っている内容であるにも拘わらず、多くの指摘を受けてしまった。特に基本結索の部分が多かった。基本結索は現場でも多用されるため完璧に仕上げなければならぬ。結索が遅かったり間違ってしまうので、活動に大きな支障をもたらさうと、消防学校にいる間にも何度も練習して、見なくても作れる

ようになるまでになりたいと思う。そのほかに、私たち学生に足りないものは返事や大きな声であることも指摘を受けた。返事は誰にでもできるし、コミュニケーションをとる上でも大切なことであり、現場では様々な騒音がある中で活動するため、大きな声でなければ届かない。どれも当たり前のことであるので、これからは意識して行っていきたい。



伊藤 愛莉
秋田市消防本部

勤務が始まると、初めは雑務がほとんどであると思うので、上司から学んだことはこまめにメモを取り、二度と同じことを聞かないようにしていきたい。

私は八月一三日八時半から一四日の八時半まで、秋田消防署にて二回の実務研修当務勤務を行った。朝七時四五分に出勤し、午前中は車両の点検要領を実施し、ポンプ車、化学車、指揮車の積載物の点検、積載場所の確認を行った。現場に出たときや出る前後には、あるべきものをそこに置き、常に持ち出せる状態にしなければならぬので、資機材のある場所、位置を早く確実に覚えたいと改めて感じた。また、午後からは体力錬成と梯上放水、応急梯子、

その後応用訓練を実施した。どの訓練でも、面体を着装したことを想定し、大きな声で元氣よく実施することを全員で心掛けて行うようにと言われ、いつもの自分が出している声では全然足りないのだと感じた。

消防学校での生活も残り一ヶ月しかない。あと一ヶ月後には、本日勤務した方々と共に勤務をする。応用訓練等での副署長からの反省で、「ロープになれること」、「火点には絶対背を向けないこと」の二つを今後の課題としてアドバイスを頂いたので、まずはその二つを頭に入れて改善できるようにしたい。そして、現場で一つでも多く使える隊員になりたい。今回学んできたこと、感じたことをこれからの訓練等に生かしていこうと思う。



児玉 龍一
能代山本広域市町
村圏組合消防本部

今回は三回目の実務研修でした。まず朝に事務室に入った時に気が引き縮まるような雰囲気を感じました。学校にいる間は災害に出動することがないので、その生活に慣れてしまったということがあると思います。普段学校では感じることでできない緊張感を感じました。初任教育を終えるとすぐに仕事が始まるので、スイッチを切り替えていつでも

災害出動できるような緊張感を持って臨みたいのです。

今回の実務研修では、日中に各車両の資機材点検、緊急梯子救出訓練、暑熱順化訓練を行いました。緊急梯子救出では先輩方の迅速な活動を見学し、ほかにも梯子を使用した様々な救出方法も見学しました。一秒を争う現場でどれだけ速く救出できるかが大事だと思うので、梯子の取扱いや救出活動等これからさらに迅速にできるよう努めていきたいです。暑熱順化訓練では四〇分間防火衣、呼吸器を着装して動き続けました。現場では訓練以上に汗をかくので、これからも繰り返し練習して暑さに慣らしていきたいです。夜間は一一九番通報は来ませんでしたが、通信勤務に就きました。



大山 大之亮
能代山本広域市町
村圏組合消防本部

初任教育を終了するまでの残り少ない期間を、今まで以上に頑張り成長していきたいです。

前回に引き続き三回目の実務研修ということで隔日勤務をしたが、初任教育での生活とは異なり、上司や同僚の方々と共に勤務して良い機会であった。

午前中は各車資機材点検、三連梯

子を用いた応用訓練を実施し、午後には暑熱順化トレーニング及び通信業務にあたった。各車資機材点検ではポンプ車と救助工作車を点検し、出場の際に不備がないよう一つ一つ点検し実施できた。その後、三連梯子の訓練を実施し、手振り要救助者の救出方法等、緊急梯子を用い、三連梯子の取扱い要領など再確認し暑熱順化トレーニングでは、防火衣及び空気呼吸器を全装着し、消防署の敷地全面を活用してトレーニングを実施した。面体を着装し訓練塔を登ったり、車庫内で屋内進入、ランニング等四〇分間休まずトレーニングを行った。

夜間勤務では、通信指令室に入り実際に通信勤務をした。私は過去に一日中通信専属で勤務したことはあるが、いつも以上に緊張勤務で遂行できた。

初任教育での生活とは異なり、実務研修をしたことで良い刺激をもらい、これからの初任教育での残り一ヶ月を精進していきたい。



戸澤 宥飛
大曲仙北広域市町
村圏組合消防本部

八月三日、一日に角館消防署にて、初任教育期間中最後の実務研修がありました。今回の実務研修で

は、午前中に火災指令があり、実際に火災現場へ出動する様子を見学することができ、とても良い経験ができました。また、資機材点検中の出動指令だったので、勤務中は常に気を抜かずに出動に備えなければならぬということを感じました。実感しました。午後は防火衣や呼吸器の装着、ホース延長から放水する一連の流れを想定した訓練を行いました。中でもホース延長の際に二重巻きホースを島田折りに変換し、真冬に雪が積もっている状況でも効率良くホース延長するための訓練で、スピードを意識し過ぎて、焦りが出て島田折りを上手くできずに、ホース延長も乱れてしまいました。実際の現場でも緊張する中で、いかに正確に迅速に行うかが求められると思うので、学校の訓練でも今以上に現場を意識して、強靱な精神力を身に付けていきたいと思えます。

今回の実務研修では、日々の積み重ねの大切さを学びました。特に結索もまだまだ全然ロープに手がついていないと感じたので、繰り返し練習していきたいです。消防学校を卒業して所属に戻った際に、地域の方々には先輩方と同じく消防士として恥をかかないように、残りの一ヶ月で自分の足りない部分に磨きを掛け精一杯努力していきたいです。



村山 宥人
男鹿地区消防一部
事務組合消防本部

二回目の泊まりのある最後の実務研修を行った。今回の実務研修では三連梯子、救急についての訓練で、まず三連梯子は基本の動きや応急梯子救出を行った。基本の動きは学校での訓練の成果をしっかりと出すことができ、以前よりも早くなっていたと言われたので嬉しかったし自信にもなった。応急梯子救出は、訓練の成果は出せたが時間が結構かかってしまったので、今後の課題だと思う。結果などを繰り返し行い、少しでも早くしていきたいと考えている。

その後、救助隊の方々が高所から落ちて足をケガし登って来られないという想定訓練を見学した。ロッククライムなどで使うロープで救出したりなど、とても勉強になった。次に救急について行ったが、学校で学んだ心臓マッサージやバックボード、ストレッチャーの扱い方について訓練したが、学んだとおりでできたと思う。人を乗せてのストレッチャーは重く、なかなか扱えずらかったが、この感覚を忘れないようにしたい。夜には通信指令室を見学し、たまに救急が入りどのように動くか見学することができ勉強になった。

今回の研修も沢山のことを学べたので、今後に生かせるように努力していきたい。



佐藤 澤利
大曲仙北広域市町
村圏組合消防本部

今回の研修は、角館署での研修に続き、大曲消防署での二度目の一日研修となりました。新庁舎になってから入ることはあまりなかったため緊張しました。

午前中は主に防火衣着装訓練、呼吸器組み立て着装訓練、応急梯子救出訓練、体力錬成を行いました。

防火衣着装訓練では目標の四五秒を切る事ができませんでした。いつも下衣の着装に時間がかかってしまうので、改善を図っていききたいと思えます。応急梯子救出訓練では、学校とは場面が異なり屋内での活動となりました。学校では二ひろの三重もやいででしたが、それではテンションがかけれなかったり、狭い空間での三連梯子の扱いに苦戦したりしたので、その場所その場面で工夫ができるようにしていきたいと思えます。

午後の訓練では主に救急訓練、結索訓練、ホース延長訓練、総合消防訓練を行いました。救急訓練ではストレッチャーの扱い方について学びま

した。扱い方も大事ですが、不安な要救助者をどれだけ安心させるような声かけができるかが大事だと思えました。要救助者の立場に立った行動を心がけていきたいと思えます。残り一ヶ月を切りましたが、分からない事をそのままにせず、積極的に訓練に励みたいと思います。



武田 海斗
大曲仙北広域市町
村圏組合消防本部

今回の実務研修は、新設された大曲消防署での宿泊研修でした。建物の外観や本部、通信指令室などは何度か見たことはありましたが、仮眠室や屋内訓練場など初めて見る場所が沢山あり新鮮でした。

訓練内容としては、午前に防火衣着装、呼吸器着装、応急梯子救出を行いました。そして午後には体力錬成とストレッチャーの使い方、CPRの訓練を行いました。午後に行った体力錬成はいつも学校で行っているより回数が多く、また暑さにもやられてとても疲れました。もっと訓練に励んで体力を向上させる必要があるなと感じました。

二日目の朝は車両点検、清掃等を行いました。消防士になる前はなぜ点検や清掃を毎日行っているのだろうと思っていました。今となって

は毎日やらないういざ使うとなった時に不備があると困ると考えるようになりまし。毎日欠かさずやることに意味があるので、所属に戻ってからは真剣に点検、清掃に取り組みたいと思います。

最後の実務研修も終わり、消防学校での生活が残り一ヶ月という段階まで来ました。基礎的なことは覚えましたが、消火活動、救急活動の現場に今すぐいけるかと言われると、まだまだだと思うので、残りの訓練に本気で取り組み、沢山のことを吸収していきたいと思えます。



7月17日 山岳救助訓練 (田沢湖)



7月26日 交流体育大会 (山形県消防学校)

トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ
消防被服全般
秋田県代理店

株式会社 高義商会

- (営業種目)
- トーハツ小型動力ポンプ
 - モリタ自動車ポンプ
 - ジェットホース
 - 消防被服全般
 - 消防災報知器各種
 - 消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
TEL(0183)(42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

株式会社 夕力ギ

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182)(32)3880
FAX (0182)(32)0839

(営業種目)

- 日本機械自動車ポンプ
- トーハツポンプ
- 各種消防機械器具
- 消防設備保守点検
- キンパイホース
- シバラポンプ
- 各種消火器

ホームページ <http://it-yokote.sakura.ne.jp/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp

支部情報アラカルト

「鹿角支部消防訓練大会」

去る七月一日(日)、鹿角市役所駐車場を会場に第七〇回秋田県消防協会鹿角支部消防訓練大会が開催されました。当日は、前日の天気予報から天候が心配されていましたが、幸いにも好天に恵まれ消防大会日和となり、大会には鹿角市、小坂町から約九〇〇名の消防団員が参加し、日ごろの訓練の成果を披露しました。



恒例となつている鹿角市女性消防団員によるカローガード隊は今年で結成十年目を向かえ、今大会では小坂町女性消防団員から協力をいただき初共演が実現し華やかな開会式となりました。また、第七〇回大会の節目として、永年にわたり地域と家庭において防火思想の普及に努められ、さらに秋田県消防協会鹿角支部消防訓練大会に積極的に参加して、これまで

その運営に協力し、多大なる貢献をされた婦人防火クラブを消防協力団体として表彰しました。



大会の結果、小型ポンプ操作は小坂町消防団第四分団、ポンプ車操作は鹿角市消防団第五分団が共に安定した操作を見せ、大会七連覇を達成しました。県大会に向けて、さらに消防操作に磨きをかけ、全県優勝をめざして頑張ります。



今後「地域の皆さんに愛される消防団」を目標に精進し、鹿角の安全を守っていききたいと思えます。

(情報提供 鹿角支部)

火災の発生状況 (速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

	平成30年		平成29年			同期比較	
	8月	累計	8月	累計	年計	8月	累計
建 物	15	104	16	120	166	- 1	-16
林 野	1	20	1	19	19	0	1
車 輛	3	27	3	21	30	0	6
その他	9	53	3	44	51	6	9
合 計	28	204	23	204	266	5	0
死者数	1	12	5	17	24	- 4	- 5
負傷者数	0	24	16	58	77	-16	-34

消防 半天・帯・団旗
優勝旗・ゼッケン
手拭・タオル・のれん
旗幕類名入染物専門

寺 田 染 工 場

横手市清川町 ☎32-0416

モリタ消防ポンプ シバウラポンプ
桜ホース・ソフト吸管 消防被服一式
各種消火器 消防機器一式

株式会社 能代消防センター
株式会社 協 立

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57
TEL (0185) (52) 6494
(52) 6361

地域の防災、災害対策に貢献!

消 防
ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設 備
火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目1番24号 TEL 018 (863) 1551(代)
山王セントラルビル7F FAX 018 (824) 3651